

北海道農業法人協会水田部会設立趣意書

世界規模でのグローバルな経済活動が行われる中、農業においてもその影響は例外ではありません。しかし、国内外での苛烈な競争があったとしても、農業経営を継続し、国内の食料自給力を維持・強化していくことは、生命を創造する農業経営者に求められる責務といえます。国内での大雨災害や海外での大規模干ばつ被害など、特定の農業生産物が供給不足に陥る事態も発生しており、世界的な気候変動によるリスクの高まりも、国内の食料自給力を改めて見直す契機となっています。

食料自給力の維持には、その基盤となる農地が十分に活用され、かつその地域が維持されていくことが必要となります。当会員の多くは、地域の中核として農業経営を行い、農業生産ならびに地域雇用の実現を通じて、地域社会の発展、農地の保全に貢献しており、今後もその果たす役割は増々大きくなっていくものと期待されます。実際、昨年7月には、道内の地域農業の振興、多様な担い手の育成確保、農地の維持などのための活動を行う北海道農業再生協議会の規定が一部改正され、その会員に当会が新たに加わることとなりました。

北海道農業再生協議会は、平成30年度産から行われる需要に応じた生産の推進に対しても重要な役割を果たしており、特に『生産の目安』の算定については新たに立ち上げた水田部会にて協議する事としています。

このようなことから、当会においても水田の利活用という観点で情報交換や会員相互の研鑽を深める機会を創出し、今後の業界の発展、地域の発展の為にも責任ある意見を発信すべきであると考え、私たちはここに「北海道農業法人協会水田部会」を結成することに致しました。

この会は、北海道農業法人協会の部会として、水田を利活用し意欲的な経営に取り組む農業経営者が自ら組織し、個々の思想・信条を尊重しながら主体的な活動を以て、水田を活用した農業経営に関する情報交換、意見交換を通じ、農業経営環境改善に対しての啓発・提言を行うことで、北海道における農業の振興と農業経営の改善を図ることを目的とするものであります。

関係各位のご賛同とご協力、ご支援を改めてご依頼するとともに、ここに「北海道農業法人協会水田部会」の設立を発起する次第です。

平成30年4月24日

北海道農業法人協会第12期役員一同